

令和2年11月20日発行

稲沢市
一色城跡
発掘調査通信

第6号 令和2年度の発掘調査が始まりました

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
株式会社 イビソク

11月から、令和2年度の一色城跡での発掘調査が始まりました。昨年度と同じく、県道給父稲沢線道路改良工事にともなう事業で、今年度は、尾張水道みち（旧尾張サイクリングロード）より西側が調査対象地となっています。

昨年度の発掘調査では、古墳時代や奈良時代の集落跡のほか、一色城跡の堀とみられる幅約13mの大きな溝状遺構を確認しました。この遺構からは漆椀が数点出土しましたが、放射生炭素年代測定によって戦国時代のものである可能性がきわめて高いことが判明しました。

今回の発掘調査は、重機で厚さ約0.8mの表土を掘削し、その下からあらわれた遺物包含層（土器などの遺物を含む土層）を人力で掘削し、基盤層（一色城跡の場合は灰白色の砂）の上面で遺構を探す（遺構検出といいます）、という手順を進めています。

発掘調査期間中は、何かとご不便をおかけすることになりますが、安全な作業に努めてまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



写真 一色城跡の発掘調査風景（20C区の東端部、北西から、奥のクスノキが神明社です）